

令和3年度 第3回 岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事録

- 1 日 時 令和3年7月21日(水) 13:00～14:50
 2 場 所 ピュアリティまきび(岡山市北区下石井)
 3 出席委員 萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員
 4 議 事 (1) 公立大学法人岡山県立大学 令和2年度に係る業務の実績に関する
 評価結果(案)について

【要 旨】

- ・事務局からの説明後、質疑応答

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
資料1の4頁、「中期計画の進捗状況は順調」としていることは特に問題ない。「②特筆すべき項目」の中に「就職支援の充実」を入れるかベきかどうか。資料2の23頁以降、及び53頁の結果表にもあるとおり、「就職支援の充実」の3項目の評点平均値が2.3点と最も低いが、大学の取組自体は評価できる。コロナ禍の影響により目標に届かなかったと触れてもいいのではないか。キャリア支援にはしっかり取り組んだというアピールにもなる。	書き込む方向で調整したい。
コロナ禍で評価が下がるのは仕方ない項目がある。15頁のインターンシップ、評価2点は厳しすぎるのではないか。	
評価の数値については、どちらでもよいと思う。大学はコロナ禍で努力し、大きな問題を作らず運営できている。どこの大学も得意不得意があり、努力しても追いつかないことはある。また、この「特筆すべき」とは、よくできたこと、あるいは問題点として記録に残していくこと、という意味なのではないか。	
4頁の「学生の支援」のところに就職支援に関する文章を追加してはどうか、というご提案だが、各委員のお考えはどうか。	
提案したものの、就職支援の目標である長期インターンシップの参加者数と県内就職率は、それぞれ教育と地域貢献の項目として記載があるので、このままで結構だ。	
このままでよろしいのではないか。(了承)	
資料2の7頁、委員会参考意見で「社会福祉士の合格率が低く工夫が必要」としていることについて、公務員になる人が多く、士気が上がらないということもあると思うが、大学としてはどう考えているか。	合格しなくても卒業できることから、コロナ禍の影響で学生のモチベーションが下がったのではないかと考えている。オンライン等の対策、勉強方法の工夫などが必要だと考えている。 合格率の低下は、大学としても大きな問題と捉えている。コロナ禍によるものなのか、学生の気質によるものなのかは、まだはっきりしていないので、これから分析していきたい。
傾向はどうか。	令和元年度までは合格率80%台を確保していたが、令和2年度で67.5%と大きく下がった。
コロナ禍で就職への意識が低下したせいなのかもしれない。	
社会福祉士の合格率が低すぎるといって、評価を3点にした方がいいのではないか。	

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>問題の認識という意味では評価3点でもいいのかもかもしれない。委員会参考意見としては「合格率が前年度より低下しており問題だ」という趣旨を追加すればよい。</p>	<p>評点について学内でも議論があったが、第3期中期計画における成果指標に対する自己評価の評定目安があり、それに基づいて判断すると、4つの合格率のうち3つを達成しているので、評価は4になる。</p>
<p>4点ということではよろしいのではないか。(了承)</p>	
<p>デザイン学研究科の進路決定率や定員充足率が低い、国公立大学においてデザイン系は珍しく、県立大学の特徴となっているので、ぜひ頑張ってもらいたい。</p>	<p>研究科の専攻の見直し等を検討している。デザイン学部の学科改編を行ったばかりで、改編後の学生の進学と合わせる必要があることから、すぐに変えることはできないが、内部では研究科改革に向けて詰めている。</p>
<p>グローバルといってもいろいろな面があるが、交換留学や教員の海外派遣など、どう努力したのか。</p>	<p>サバティカル制度という教員向けの研修制度があり、イタリアの協定校との例では、教員が先に研修で訪れたことにより協定を結び、学生の研修実施につながった。海外からの留学生は少ないため、学生の海外研修派遣に力を入れているが、昨年はコロナで中止となった。「トビタテ留学JAPAN」という留学助成制度にも採択されており、今後、留学を予定している。</p>
<p>内部質保証推進会議は、大学の内部質保証に責任を持つ組織なのか。</p>	<p>どこの大学もPDCAサイクルをどう回すかを検討している。学内で内部質保証推進会議を立ち上げたところであり、所掌について相談している。チェック機能をどうするかなど、制度設計をしているところだ。</p>
<p>アクティブ・ラーニングについて、最近の中等教育では、授業におけるグループワーク等ではなく、生徒の授業外での自主的、主体的な学習時間の確保を重視するほうに意味が変化していると聞く。アクティブ・ラーニング導入を目標設定した頃と状況が変わってきていると思うが、県立大学ではどうか。</p>	<p>難しいと感じている。正課外での学びを取り入れていこうとボランティア活動の単位認定を検討している。アドバイスをいただきたい。</p>
<p>コロナ禍でオンライン授業になったことにより学習時間が増えているが、元に戻ったとき増えた部分をどう維持するのか。考えを変えていかないと、中期計画が終わる頃には事情が変わっているのではないか。</p>	<p>単位取得に必要な授業外での学習時間の確保は重要な課題である。アンケート結果を見ても、宿題や課題を増やすだけではいけないので、工夫していく必要がある。学生に考えさせる課題を出すのが効果的なのだろう。 アクティブ・ラーニングの定義以上に、ワクワク心を持って講義に付いていけるか、先生方と一緒に考えながら進めていきたい。</p>

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>学生の県外・県内出身者のバランスについて、県内高校出身者の比率を高めるだけでは駄目で、県外から来てくれることの価値を認識する必要がある。アクティブ・ラーニングやコロナ対応など、アフターコロナを見据えてどう充実させていくかが課題だ。学生や教員がワクワクするような大学に向けて、すでに企画競争が始まっている。建築学科の新設は面白く、いいことだ。さらに質を高めていってほしい。</p> <p>企業においても、質保証、内部統制、社外取締役など、厳しく言われている。大学も同様だ。うそは言わない、悪いことは公表する、というスタンスが求められる。最後は人間にかかっている。風土や文化、規範が重要だ。制度は機能しないと意味がない。</p>	
<p>資料2の12頁、デザイン学研究科の進路決定率は66.7%で目標を達成できずとあるが、目標が書いていないのと、分子・分母が何か分からない。低いのは時点が早いからなのか。また、「進路」とは何を意味するのか。</p>	<p>就職及び進学を意味しており、時点は令和3年3月末、令和2年度の最終結果である。分母は令和2年度の修了者のうち就職希望者（進学希望者はいない）、分子は内定者を意味している。デザイン学研究科は在学者自体が少ないため、就職希望者が3人、内定者が2人、残る1人が未定であることから、66.7%となった。</p> <p>（目標は13頁にあるとおり、全研究科で進路決定率100%と設定している。「進路」の意味は、就職に加えて、博士前期課程から博士後期課程への進学も含んでいる。）</p>
<p>アルバイト収入があることと、感性が高く、就職には向かないのかもしれない。</p>	<p>大学院生が増えれば状況も変わると思うが、もっと挑戦したいなど、他の2学部とは意識が違う。</p>
<p>クリエイティブな世界に身を置いておかないといけない。売上げや品質管理などルーティン作業は不向きだろう。</p>	
<p>アクティブ・ラーニングについて、実社会に出て応用できるかが今の時代重要だ。学んだことをどう生かすかが大切だと思う。ますます発展することを期待する。</p>	
<p>資料2の15頁、長期インターンシップについて、参加者が少ないため評価は2となっているが、コロナ禍で参加すること自体が良いことなのかどうか。</p>	
<p>大学としては、評価2点でよいか。</p>	<p>何の影響か読み取れない状況にあり、このままで結構だ。</p>
<p>賛成だ。活発化は令和4年度になるだろう。2点のままでいきましょう。（了承）</p>	